

Danke Berlin

『ありがとう ベルリン』 2015年5月 No.5

ドイツ連邦共和国 ベルリン日本人国際学校 多田明寿 (札内中学校 在籍)

3度目の春をむかえました。

皆さんこんにちは、ご無沙汰しています。昨年7月から10カ月ぶりの報告になります。ベルリンも先月末、「さくら祭り」が開かれるほど暖かい春・初夏の装いになってきました。

そして私のこちらでの生活も、3年目をむかえました。赴任当初、『1年目は目が慣れる』『2年目は耳が慣れる』『3年目は口が慣れる』という言葉をごちうの方に聞いたことがあります。ドイツの文化や景色が受け入れられると、次にドイツ語が聞き取れるようになり、最後はドイツ語が話せるようになる、という意味だと思います。

さて私の現状は…？、目は十分すぎるほど慣れました。この国の素晴らしい所・面白い所は一向に飽きることはありません。そして何と言っても、丁寧で親切なドイツ人の方々に感謝する毎日です。



昨年9月企画・引率した
修学旅行 ケルン大聖堂

私の住居のアパートメントです

徒歩3分で、リング（東京で言う山手線）の駅と地下鉄の駅、そしてバス停もあって大変便利なところ。ちなみに、このアパートメントは何と「築100年！」です。十勝・日本の皆さんは信じられないでしょうが、古いもの古い文化を大切に貴重に考えるヨーロッパでは、ごくごく当たり前のことなのです。物件価値も高く、内装はもちろん改修されていて快適な生活を送っています。管理人さんも優しいです。



日本人学校で考えていること

私にとって、ベルリン日本人学校は5校目の勤務になります。この学校で、一番考えていることと学んでいることは、児童生徒への「話し方・伝え方」です。中学部の教員が、小学生の授業を受け持ったり、自分の専門外の教科も教えています。また、ドイツで生まれ育った児童生徒もいます。ですから札内中時代よりも更に、授業等で生徒と接するとき説明するとき、自身の伝え方にとっても気を使うようになりました。でもその結果、『分かりやすく論理的に』を心掛けることで、フアシリテーションの分野で更に一歩前進することができたのではないかと、思っています。今も日々勉強の毎日です。

